



だっこするよ

平成29年7月

社会福祉法人茂原高師保育園

北区立赤羽台保育園

〒115-0053 北区赤羽台1-4-11-105

3900-0189 FAX 3907-8690

園長 奥戸 昌子

自然にふれ 今こそ 感受性を 育てたい

駅から園へ向かうゆるやかなスロープを歩くと、真っ白なクチナシの花が良い香りを漂わせています。初夏の香りですね。季節の花々は、街散歩を楽しませてくれる一つですね。

戸外活動で、赤羽自然観察公園へよく出かけます。都会であっても豊かな自然をたっぷり体験できる公園です。春からおたまじゃくしを取りに行ったり、ザリガニを釣りに出かけたり、広い原っぱを全力で走るのにも最高、地域の皆さんと出会い、自然や人々に出会える貴重な場所です。毎年、七夕の笹もいただき感謝です。乳児さんたちも地域とふれ合う散歩が大好き。一緒に散歩へ行くと自転車の人に手を振り、綺麗な花を見ると手を伸ばして触ろうとし、小さな虫たちを見つけて全身で観察、その場所からしばらく動かなくなります。蟻の行列、蝶のダンス、団子虫、その度に、「あ〜あ〜」と地球の生命を感じ、自分の住んでいる地球はこんなに美しくて面白いと思っているようです。こどもたちの脳に、スマホやDVDの映像やゲームが入る前にしっかりと自然の美しさにふれさせてあげたいと思います。

乳児玄関でも、帰り支度の際に、ザリガニをお母さんと覗き込んで、その動きを研究、真剣です。少しの動きに声を立てて笑い、「ザリガニ〜」と大喜びです。感じるからこそ生きていること、互いに生命に溢れていることですね。

レイチェル・カーソン（1962年に著書『沈黙の春』で農薬や化学物質による環境汚染や破壊の実体に、いち早く警笛を鳴らしたアメリカの海洋生物学者）『センス・オブ・ワンダー』から引用。2F貸し出しコーナー有り

「こどもにとって「知る」ことは「感じる」ことの半分も重要ではないと固く信じています。こどもたちが出会う真実のひとつひとつが、やがて知識や知恵を生み出す種子だとしたら、さまざまな情緒や豊かな感受性は、この種子を育む肥沃な土壌です。幼いこども時代は、この土壌を耕すときです。」新潮社より〜 幼い甥と一緒に自然を探索した体験を瑞々しく描かれていて、何度読んでも新鮮な感動を覚えます。知識が入る前に感性を育てたい。乳幼児期はその大切な時期です。クラスでも腰を曲げて真剣に虫かごを覗き込んでいます。

こども時代にたっぷり自然体験したこどもは、その後の人生においても自然と関わり、人々と関わるのが喜びとなり継続すると言われます。感動したことは忘れず我が子へとつながるのでしょう。

知識重視、小学校準備としての幼児教育ではなく、今、ここで生きていることを楽しみ「自然との共育＝教育」豊かな未来へと結びつけていくこと・・・そう人間の五感をくすぐり「学びの土壌」を耕していきたいと思います。こどもたちは土に近い生き物なのか直ぐに自然と一体化します。（身長が低いから？）そんな同化する力を更に磨きをかけて遊びたいものです。そして、環境を守る人へ育てて欲しいと願います。

7月、こどもたちは「水」に出会います。それぞれの発達に応じた水遊び、プール活動を安全に行うことを通して、水の楽しさや怖さ、命の大切さを伝えていきます。プール活動が始まりますと午睡もぐっすりですが、疲れ気味になります。早めの就寝をお願いいたします。写真は、4歳児「ザリガニ でてこ〜い」です。